

大阪大学 COI における知財マネジメント支援について (若手応援)

水野康男・佐藤浩 (知財戦略アドバイザー)

大阪大学 COI 研究推進機構 COI 企画推進室

専門分野・キーワード: 知的財産、マネジメント

自己紹介: 特許庁、工業所有権情報・研修館から大阪大学 COI に派遣されています。



1. 大阪大学 COI の狙い

10年後の“豊かな生活環境の構築”実現のため、子供から高齢者に至るまで個々人が人間力を飛躍的に活性化させ、いつでも意欲的に潜在力(個人が持つ最大の能力)を発揮できる“スーパー日本人”を育成し、一人一人が自ら生き生きとした生活を切り拓く『セルフエンパワーメント社会』の実現を目指す[1]。

2. 4つの取組とシステム化で社会実装を実現

研究開発～社会実装へのアプローチとして、研究開発では「状態検知」「脳のメカニズム解明」「検知手段(デバイス)」「活性化の手段」の4つの取組で推進する。

更にこの4つの取り組みをシステム化・サイクル化することにより、下記のライフステージにあわせた「7つのユースケース」を設定して社会実装を推進する。



3. 知的財産プロデューサー派遣事業

特許庁、工業所有権情報・研修館(INPIT)は、我が国のイノベーションの促進に寄与することを目的に、公的資金が投入され革新的技術の研究開発を行う「産学官連携型」の研究開発プロジェクトを推進している大学または研究開発機関に、企業等において豊富な実務経験をもつ「知的財産プロデューサー」を派遣し、活用を見据えた知的財産戦略の策定や知財マネジメント等を支援する事業を実施している。

4. 知財戦略とマネジメント支援

本 COI における知財戦略は「社会実装に向けた有力な知財の出願の加速」を主眼とし、特許調査ツールの選定・導入、サイトビジットやシンポジウムにおける研究進捗状況把握、発明相談、先行技術調査、海外展開が見込まれる発明の PCT 出願、知財セミナー開催などを通じ、知財ポートフォリオの構築を支援した結果、これまでに 70 件の発明・商標が出願された(うち外国出願は 14 件)。現在 COI は phase3 に入り、終了後の知財の取り扱いや、より良く社会実装に活かす方策についても支援を行っている。

4. 参考文献

[1] JST News, 3, May 2017